

令和8年度 豊田工業大学入学式 学長式辞

本日ここに豊田工業大学の2026年度の入学式を行うに当たり、本学に入学された皆さんに、心からの歓迎の意を表します。また、今日まで、新入生の皆さんを支えてこられたご家族や出身企業の方々には、この若者たちに本学での学びの機会を与えて頂いたことに御礼申し上げます。今年度、本学には、学部1年生100名が入学し、3年に編入の5名を加えると、105名が入学します。内4名が社会人です。また、大学院の修士課程に56名が入学し、内1名が社会人です。博士課程には3名が入学し、昨年10月入学の2名を加えると、計5名が入学します。

まず初めに、本学について紹介させていただきます。本学出身の大学院入学者の皆さんは既にご存知のことと思いますが、この機会に認識を新たにしてください。本学は、トヨタ自動車の社会貢献事業の一つとして1981年に誕生した大学です。未来を切り拓く高い意欲と能力を備えた若者を育成し、社会に貢献するという高い志を持っています。この目的を達成するため、日本国内はもちろんのこと、海外の一流大学とも並ぶ優れた環境を整備しており、質が高く、特色ある教育と研究を進める大学として、内外から認められています。5年後の2031年には開学50周年を迎えます。皆さんには、このような大学に入学したことを誇りに思っただけならばと存じます。

本学が建学の理念として掲げているのは、「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」という、トヨタグループの創始者豊田佐吉の遺した言葉です。この言葉は、社会の抱える問題とその原因を研究し、創意工夫によって問題を解決し、より良い未来を拓くこと、つまり創造の大切さを伝えるものです。この理念に従って、大学全体が研究と創造への高い志を持ち、次の時代を拓く人材の育成に努めて参りました。

本学は、時代や産業構造がどのように変化しても活躍して行ける人材を育成するために、開学以来、いくつかの特色を掲げて教育を進めてきました。その一つが、学部生全員を先端工学基礎学科に受入れ、工学全体の基盤となっている物理学的概念や数学的方法論をしっかり学ばせる基礎教育に力を入れていることです。また、2年後期以降は、機械工学、電子・情報工学、物質工学の中から一つを専攻分野として選び専門性を深めますが、できる限り他のコースも副専攻として学び、分野を横断する能力を付けることを奨励しています。皆さんには、学術の基礎基盤の学習を通じ、学問の基礎の奥深さを知り、物の本質を理解できた時の深い喜びを体験することを望んでいます。

本学の教育の第2の特色は、体験学習を重視する点です。学内での実験やもの作り実習はもとより、学外での企業実習を行い、工学と工業を体験的に学べるようにしています。これらの教育を通じ、実際のモノに触れ、目の前で起きる現象を詳しく観察し考察する中で、現象の背景にある法則や原理を捉える力が養われていくことを期待しています。

本学の教育の第3の特色は、新たなものを作り出す意欲と能力、即ち「創造性」を育てるための種々の取組みを進めている点です。入学直後から小さな創意工夫をスタートし、1年毎にレベルを高める取組みを進めています。この「創造性開発プログラム」と呼ぶ取組みにより、本学の学生が、智慧と工夫で身の周り和社会を良くする力を育むことを期待しています。

本学の教育の第4の特色は、学生が、工学の基礎や専門を学ぶだけでなく、個々の人間とその集団である社会や世界について深く学ぶことを大切にしている点です。皆さんには、哲学や経済学などの教養科目の学習に加え、寮での生活、企業での実習体験、また休暇を利用した旅行やボランティア活動などを通じて、人間とは何か、社会とは何か、自分が日本社会

や世界とどう関わって行くべきかを、深く考えて欲しいと思っています。

これに関連し、本学では、皆さんが国の内外で活躍できるよう、日本語と英語によるコミュニケーション力や、異文化の理解力を高めるための学内プログラムを充実させています。また、海外での語学研修やインターンシップの機会に留まらず、2003年にはシカゴ大学と連携し、豊田工大シカゴ校を姉妹校として開学して、そこに留学する制度を整備するなど、他大学にない多くの制度を設けています。学部および大学院へ入られた皆さんには、こうした仕組みを活かし、世界各地の暮らしや価値観の多様性を知ると共に、我国の文化や社会への理解を深めることで、自らの人生観と世界観と歴史観を築き、広い視野を持った人間として、社会に大きく貢献することを期待しています。

他方、大学での勉強や研究は、必ずしも容易なものではありません。人間関係もいつもうまく行くとは限りません。ほとんどの皆さんが、大なり小なり、挫折や悩みを経験することになるでしょう。しかしこれらの困難を乗り越えること自体も、皆さんを人間として大きく成長させる糧となるのです。本学は、今年度からの新たな取組みとして、「学生エンパワーメントセンター」を設けました。そのミッションは「学生一人ひとりが自らの可能性を信じ、主体的に人生を切り拓く力を解き放つ」ことです。自分の将来はこれでいいのだろうか、このまま勉学を続けていいのだろうか、など、心に疑問が生じたら、迷わずセンターを訪ねてみて下さい。

次に、皆さんが今日から勉強や研究を始めるにあたって、是非心掛けていただきたいこととお話しします。まず学部に入學された皆さんに、改めて「おめでとう」と申し上げたく存じます。その意味は、単に入學しておめでとうということばかりでなく、受験を目的とした学びから解放された、学びの自由を得た、という意味でおめでとうと申し上げたく思うのです。高校から、場合によっては中学からの勉強は、建前は別にしても、大学受験にパスすることが主な目的であったことは否めないことかと存じます。今日を境に、皆さんの勉強は質が変わります。と言うよりは、自ら質を変えて行かなければなりません。やらされるから、やりたいことをやる、への転換です。

言うまでもなく、大学は就職予備校ではありません。これからの皆さんの勉強が、良い就職先に入ることを目的としてしまうと、勉強の仕方がこれまでと同じになってしまい、せっかく大学に入學した意味が薄れてしまいます。今からは、難しい易しいとか、点を取りやすい取りにくいとか、就職に有利不利とかは脇に置いて、自分の好きなことを勉強してください。興味があるから、好きだから、心が躍るから、を基準に勉強に取り組んでください。コスパやタイパを基準には絶対しないで欲しいのです。人がやるから自分もやる、ではなく、人はどうであれ自分はこれをやるんだ、という姿勢で臨んで欲しいのです。子供の頃を思い起こして、そう言えば自分は「これ」が好きだったんだ、ということを出してみてください。大学ではそのことを基準に、勉学も、課外活動も取り組んでもらえればと思います。好きなことに懸命に取り組んだ結果、人より時間が多くかかったというのは、決して恥じることではなく、むしろ誇れることです。学ぶ姿勢の転換によって、同じ大学生活が何倍も楽しく有意義なものになります。

昨今話題の生成 AI との向き合い方にも若干触れておきたいと思います。皆さんが頑張って大学に入學する目的は、これも言うまでもなく、皆さん自身を鍛えるためです。皆さんを鍛えるために設定されている課題に対して、自分自身の労力を省くために生成 AI を使ってしまうと、AI が鍛わることはあっても、皆さんが鍛わることはなくなってしまいます。これは皆さんにとっての大きな機会損失です。最小の労力や時間で点を稼ぐことが目的なのではなく、たとえ労力がかかっても、時間がかかっても、自分自身で考えて、理解して、皆さんの頭脳を鍛えるのが目的であることを自覚して、AI に自分の代わりをさせるようなことはし

ないで欲しいと思います。

話を戻しますと、好きなこと、楽しいことに取り組むという姿勢は、大学院に入学した皆さんにも改めて思い出してもらいたいことです。世間では「もう大人なんだから、好きなことなんて諦めなさい」とか、「好きなことをやっていて渡って行けるほど世の中は甘くない」と言われます。実際、仕事となると好きじゃないことをやらなければならない局面の方がむしろ多いでしょう。ただ、大学院に入学した皆さんが取り組む先端科学技術の研究は、好きでやったことの方が大きな成果につながります。逆にやらされてしょうがなくやったことは大きな成果にはなりません。さらに言えば、大きな成果を出すことが目的ではなく、結果はどうであれ、好きな研究に没頭した経験自体が、大学院時代に皆さんが得る最大の果実となるのです。

本学の榊元学長が、以前の式辞で「神聖な 10 年間」という言葉を引用されています。これは、イノベーションや創造的破壊を提唱したことで有名な、20 世紀前半の経済学者で、ハーバード大学教授のシュンペーターが、常々口にしていた言葉だそうです。20 代前後の 10 年を指していて、その意味は「人の一生の中で、知的創造力が最も高く、自由で、実り多い 10 年」ということです。もっと噛み砕いて言えば、頭が最も柔らかく、常識に縛られず、地位や名声を気にかけることなく、長い時間一つのことに没頭でき、失敗してもやりなおすことができる、これら条件が全て揃う一生に一度だけしか訪れない時間ということです。この時期に、何に本気で取り組んだか、どこまで深く考え抜いたか、がその後の人生を決定付ける、と考えたそうです。これには私も完全に同意します。

本日学部あるいは大学院に入学される皆さんの年代がまさにこの「神聖な 10 年間」にあたっていて、「人生の旬」をこれから本学で過ごされようとしているのです。若さに恵まれ、知的にも、体力的にも、感受性にも恵まれた時期に、自らの意志によって多くを学び、多くを経験する貴重なチャンスが与えられているのです。そう考えると、このかけがえのない時間を、ゲームやユーチューブ、SNS で潰してしまうのは、いかにももったいないことです。勉強、研究、課外活動、運動競技、社会奉仕、新しい友人の獲得、恋愛、起業、その他なんでも、学生時代にしかできない「心躍ること」に飛び込んで、充実した「人生の旬」を過ごしてください。新入生の一人一人が、本学で実り豊かな日々を過ごされることを祈り、私からの歓迎の言葉といたします。

あらためまして、本日はご入学、誠におめでとうございます。

令和 8 年 4 月 1 日
豊田工業大学 学長 中野 義昭